

2016 後期 LS(本)

受験番号

2016 年度 甲南大学法科大学院入学試験問題

専門論文試験 民事訴訟法・刑事訴訟法

(120分)

受験についての注意

1. 試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはならない。
2. 問題は2ページである。印刷不鮮明、汚損等があれば申し出ること。
3. 解答用紙は民事訴訟法と刑事訴訟法各1枚である。解答用紙には裏面もあるので注意すること。
4. 解答は、該当する科目の解答用紙を使用すること。解答用紙を誤った場合、その答案は無効となる。
5. 答案は、横書きとする。
6. 答案は、実線内の番号に従って書き進めること。
7. 答案は、黒ボールペンまたは黒インクの万年筆で記入すること。これら以外で記入された答案は、無効となる。
8. 答案を訂正するときは、訂正部分が数行にわたる場合は斜線で、1行の場合には横線で消して、その次に書き直すこと。
9. 下書きには、問題冊子の余白を適宜利用すること。
10. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

専門論文試験 民事訴訟法

【問題】

以下の〔事例〕を読み、〔設問〕に解答しなさい。

〔事例1〕

XはYを相手取って2500万円の貸金返還請求訴訟を提起した。Xは請求原因事実として、「(ア)2013年12月13日にXはXの自宅においてYに現金2500万円を交付した。(イ)Yはその際、2014年12月末日までに全額返済することを約束した。(ウ)2014年12月末日は経過した。」と主張している。

第1回口頭弁論期日においてYは、「X主張の日時に現金2500万円を受け取ったことは認めるが、これは2012年10月末ころにYがXに売却した絵画5点の売買代金の支払いとして受領したものである。」と主張した。

〔設問1〕 Yの主張は訴訟法上どのような意味をもつのか、説明しなさい。

〔事例2〕（〔事例1〕のつづき）

第3回口頭弁論期日において、Yは「この現金はXの父である訴外Aから交付されたものであったので、現金2500万円をXから受領したとの陳述を撤回したい。」と主張した。

〔設問2〕 この主張は認められるか、説明しなさい。

〔事例3〕（〔事例2〕のつづき）

その後、裁判所の強い勧告もあって、XとYの間で、「①X・Y間でYはXに対して、本件貸金債務として2000万円の支払い義務があることを確認する。②YはXに対し、前項の金員を次のように分割して、いずれもX指定の銀行口座に振り込む方法で支払う。(a)2015年12月末日限り500万円、(b)2016年12月末日限りで1500万円」との和解が成立し、その旨、和解調書に記載された。

〔設問3〕 この和解調書にはどのような効力が生じるのか、説明しなさい。

専門論文試験 刑事訴訟法

【問題】

以下の項目，用語ないし原理などについて，簡潔に説明せよ（なお，判例を前提にする）。

- (1) 勾留に対する被疑者・被告人の救済方法
- (2) 証拠の取調べ請求から採用決定，その後の不服申立の概要
- (3) 刑事訴訟法317条の趣旨について